

す い た み な み し ょ う が っ こ う

令和6年  
(2024年)  
全国学テ号

# 吹田南小学校だより

学校教育目標 「つたえよう わたしの思い うけとめよう あなたの思い」

## 令和6年度 全国学力・学習状況調査の分析について

本年度、6年生を対象として「令和6年度全国学力・学習状況調査」を実施し、9月上旬に個人ごとの結果をお返ししました。また吹田市でも、今回実施した調査結果の概要を吹田市のホームページを通じて公表しております。

この調査は小学校の最終学年のみを対象とした調査であり、教科も国語・算数に限られております。また、測定されたものは学力の一部であり、学校における教育活動の一側面に過ぎません。そのことを踏まえつつ、調査によって得られた課題を明らかにし、その改善に全力を注ぐことが、調査本来のねらいであると考えています。

対象となった6年生には、よりきめ細かな指導ができるよう取り組みを進めるとともに、学校全体として課題に応じた学力向上につながる具体的な指導方法の工夫改善も図ってまいります。各ご家庭におかれましても、以下の分析結果をもとに、今後の家庭学習の指針として、参考にさせていただきますようお願いいたします。

### 1. 教科に関する調査の分析

#### (1) 国語

##### ■ 概要

平均正答率については全国値をやや上回り、大阪府の値を上回りました。また、単純に比較はできませんが、正答率は、昨年度をやや上回りました。



##### ■ 各領域における成果と課題、指導改善のポイント

###### 【話すこと・聞くこと】

この領域では全国値とほぼ同じでした。この領域の問題は、「目的や意図に応じて、日常生活の中から話題を決めたり集めた材料を分類したり関連付けたりして、伝え合う内容を検討する」「資料を活用するなどして、自分の考えが伝わるように表現を工夫する」等の問題です。ここ数年、学校教育目標を「つたえよう わたしの思い うけとめよう あなたの思い」として、「学び合い」による授業方法に取り組んできた成果が表れていると考えます。

###### 【書くこと】

この領域では全国値とほぼ同じでした。この領域の問題は、「目的や意図に応じて、集めた材料を分類したり関連付けたりして、伝えたいことを明確にする」等の問題です。目的や意図に応じて、資料を用いて、自分の考えが伝わるように書き表すというのは難しい作業です。令和4年度から「書く」ことにも取り組んできた成果が表れていると考えます。

###### 【読むこと】

この領域では全国値を上回りました。この領域の問題は、「登場人物の相互関係や心情などについて、描写を基に捉える」「人物像や物語の全体像を具体的に想像したり、表現の効果を考える」等の問題です。今後も読む目的を明確にし、必要な情報を見つけたり要約したりする活動が必要です。

###### 【言葉の特徴や使い方に関する事項】

この事項では全国値を上回りました。この事項の問題は、「話し言葉と書き言葉との違いに気付ける」「漢字を正しく使える」「主語と述語の関係を捉えられる」等の問題です。

###### 【情報の扱い方に関する事項】

この事項では全国値とほぼ同じでした。この事項の問題は、「情報と情報の関係付けの仕方、図などによる語句と語句との関係の表し方を理解して使える」等の問題です。

###### 【我が国の言語文化に関する事項】

この事項では全国値を上回りました。この事項の問題は、「日常的に読書に親しみ、読書が、自分の考えを広げることに役立つことに気付ける」等の問題です。

#### ■ 国語科における分析結果と課題について

「主体的・対話的な学び」を実現していくためには、あらゆるツールを効果的に活用する力が問われてきます。そこで、「目的や意図に応じて、話題や材料を分類したり関連付けたりして伝えたいことを明確にする」「資料を活用して、自分の考えが伝わるように表現を工夫する」等を、伸ばしていきたいです。そのためには、国語の学習だけではなく、日常的に、他の教科や本や新聞等を活用して、読み手や書き手の考えについて語り合うことや書くことが大切だと考えます。この活動は、ご家庭でも、保護者と共に取り組むことができます。

#### (2) 算数

##### ■ 概要

平均正答率については全国値、大阪府の値に比べ、ともにやや上回る結果となりました。また、単純に比較はできませんが、正答率は、昨年度と比べてほぼ同じでした。

##### ■ 各領域における成果と課題、指導改善のポイント

###### 【数と計算】

この領域では全国値をやや上回りました。この領域の問題は、「問題場面の数量の関係を捉え、式に表す」「数量の関係を、口を用いた式に表す」「数量の性質を活用して計算の求め方や答えを記述する」「除数が小数の除法において、除数と商の大きさの関係を理解する」等の問題です。他の領域と比べるとやや上回るにとどまっていますが、概ね理解できていると思われます。

## 【図形】

この領域では**全国値をやや上回りました**。この領域の問題は、「直方体の見取り図を理解して描く」「直径、円周、円周率の関係を理解する」「球の直径と立方体の一辺の関係を捉え、立方体の体積の求め方を表す」「五角柱の底面や側面に着目し、面の数とその理由を記述する」等の問題です。他の領域と比べるとやや上回るにとどまっていますが、概ね理解できていると思われます。



## 【変化と関係】

この領域では**全国値を上回りました**。この領域の問題は、「速さが一定の時の道のりと時間の関係を考察する」「道のりが等しい場合の速さについて、時間を基に判断し、その理由を記述する」「速さの意味を理解する」等の問題です。よく理解できていると思われます。

## 【データの活用】

この領域では**全国値を上回りました**。この領域の問題は、「円グラフの特徴を理解し、割合を読み取る」「二次元の表を読み取り、必要なデータを取り出して、おちや重なりがないように分類する」「折れ線グラフを読み取り、条件に当てはまることを記述する」等の問題です。よく理解できていると思われます。

### ■ 算数科における分析結果と課題について

算数の全ての領域で全国値を上回り、よく理解できていますが、算数においても、今後、「主体的・対話的な学び」を実現していくためには、あらゆるツールを効果的に活用する力が問われてきます。そこで、「**公式を覚えるだけではなく、求め方を式や言葉を用いて記述する**」「**求められている解答の仕方を読み解く**」、などを、今後伸ばしていきたいです。そのためには、求め方を文に書いたり、設問に求められる条件を見つけたりすることが大切です。低学年の頃から「なぜそう考えたの?」「どうやって解いたの?」等、子どもに説明させる問いかけを意識的に使うことは、ご家庭でも、保護者と共に取り組むことができます。

## 2. 生活習慣や学習環境等に関する調査の傾向（児童質問紙調査について）

特徴的なこととして、「自分と違う意見について考えるのは楽しいと思いますか?」、「友達関係に満足していますか?」「分からないことや詳しく知りたいことがあったときに、自分で学び方を考え、工夫することができていますか?」「いじめはどんな理由があってもいけないことだと思いますか?」という質問では、全国値を上回りました。子どもたちが、学校教育目標を理解して、良好な友達関係を築いて、充実した小学校生活を送っていることがうかがえます。また、正しい倫理観が育っていることがうかがえます。

しかし、「自分にはよいところがあると思いますか?」、「人の役に立つ人間になりたいと思いますか?」、「将来の夢や目標を持っていますか?」という質問では、肯定的回答が全国値を少し下回りました。4月の調査からこれまで、6年生の子どもたちは、修学旅行や平和教育、キャリア教育などの経験を積み、委員会活動や学校行事の準備など最高学年として体

験したことにより、随分成長してきました。更に、これから3か月間、卒業、進学に向けての取組を充実させ、中学校に大きく羽ばたいて欲しいと考えています。

## 3. 今後の取り組み

**現在実施されている学習指導要領では、「何を知っているか」よりも「何ができるようになるか」を重視しています。**子どもたちの学力を定点測定するのがこの「全国学力・学習状況調査」の目的ですが、その「測定する学力そのもの」に対する考え方が変化しています。例えば算数では、計算力や暗記力から実践的な場面で使えるスキルや知識に学力の柱が移ったことを示しています。具体的には、「他者に伝えるときにどのように伝えるか」とか「資料をどのように活用するか」というような実践的な場面で知識をどのように活用できるか、というところに重点が置かれています。このことは、国語・算数に限らず、理科や社会等すべての教科についても同じことが言えます。

本校では、ここ数年、学校教育目標を「**つたえよう わたしの思い うけとめよう あなたの思い**」として、「**学び合い**」による授業方法に取り組んでいます。ペアやグループ学習の討議、学び合いを軸にして各学年が主体的に対話的な深い学びの実現をめざし、他者とのかわりの中で学力や探究心を育む授業研究を行い、年間6回の研究授業の場で提案し、その後の研究協議で深めることを繰り返し、日常的に授業改善を行っています。

また、令和4年度からは、令和3年度の結果に基づいて、2年計画で「書くこと」にも取り組んできました。今年度からは、令和5年度の結果等に基づき、「子どもと創る 意欲を引き出す授業 安心できる教室」に取り組んでいます。

## 4. ご家庭にご協力いただきたいこと

最後に、毎年お願いしていることではありますが、実践的な場面で使えるスキルや知識である「**活用する能力**」を育てるために、ご家庭でもできることをお知らせします。

例えば、学校で習った学習(教科は問わず)や、読んでいる本に対し「その学習は、その物語は、どんな内容なの?」と要旨やあらすじを説明してもらったり「学習をして、その物語を読んでどう思った?」と聞くことで、子どもの思考力を高めていくことにつながります。友達との遊びの中であった出来事や、新聞やテレビのニュース、ドラマやアニメ等、家庭で会話をたくさんすることが有効ですので、どんなことでも題材になります。

次のステップとしては、日常生活の中で、**物事の様子や答えの求め方を自分の言葉で説明する機会を作っていただくことが、子どもの思考力を育てます。**まとめたり、順序立てて説明したりすることが少し苦手な子どもには、スモールステップとして、ヒントとなる言葉をいくつか示し、言葉をつなげて文章にするとところから始めればよいと思います。

更に、家庭生活において、「家庭学習の時刻や時間を決めて取り組む」「携帯電話・スマホやタブレットの使い方について、家庭で約束したことを守る」「就寝・起床時刻を守る」等、**規則正しく生活させることや、「新しいことにチャレンジする」「地域の行事に参加する」**等、いろいろな人やものに触れ合う機会を持たせることも勧めただければ、学力向上に繋がります。積み重ねが大事です。これまで同様、ご協力よろしくお願いいたします。